

# 松江工業高等専門学校

## 目 次

I	選択的評価事項に係る評価結果	2-(8)-3
II	事項ごとの評価	2-(8)-4
	選択的評価事項A 研究活動の状況	2-(8)-4
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	2-(8)-6
<参 考>		2-(8)-9
i	現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(8)-11
ii	目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(8)-12
iii	選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(8)-14
iv	自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）	2-(8)-16
v	自己評価書等リンク先	2-(8)-17



## I 選択的評価事項に係る評価結果

松江工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項A 研究活動の状況」において、目的の達成状況が良好である。

松江工業高等専門学校は、大学評価・学位授与機構が定める「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において、目的の達成状況が良好である。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の採択を受け、公開講座「地域産業論」を開講するなどの、地域の活性化などに貢献する取組が行われている。
- 経済産業省の「平成18年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された、「島根県における人材育成プログラム『インテリジェントCALS』」は、特色ある取組である。

## II 事項ごとの評価

### 選択的評価事項A 研究活動の状況

高等専門学校の目的に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究の目的に沿った活動の成果が上がっていること。

#### 【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

#### (評価結果の根拠・理由)

A-1-① 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

当校では「研究に関する目標・方針」を定め、これに基づき研究体制及び支援体制が整備されている。研究活動の推進は、専攻科が中心となっているため、専攻科の充実を図るとともに、学校全体の研究活動の充実を図るため校長補佐3人のうち1人を専攻科長としている。また、専攻科は電子情報システム工学専攻と生産・建設システム工学専攻の2専攻があり、専門分野が異なるため、それぞれの専攻に副専攻科長2人を配置する体制となっている。

地域と連携しながら研究活動などを推進する目標として、「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」を定めている。平成8年に設置した地域共同テクノセンター（旧称 新技術教育研究センター）はこの方針を実現するための中核となる学内組織であり、学科の枠を超えた研究活動の推進及び地域社会との産官学連携を基本とした研究の推進を行い、共同研究をはじめとする学外資金導入の促進を図っている。

研究の企画・実施に当たっては、教員間の連携によるプロジェクト研究に対してプロジェクト研究費が配分されているほか、各教員への基礎研究費の配分に当たって、専攻科の特別研究や準学士課程の卒業研究指導の実績に基づき配分を行うなど、効果的な研究費の配分を行っており、研究活動を充実させるための措置を講じている。

技術的な支援体制として、実践教育支援センターがあり、教育における技術支援だけでなく、研究の支援も行う体制になっている。

これらのことから、研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能していると判断する。

A-1-② 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

研究に関する目標・方針を「本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる」と定めている。このうち、「ファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加」については、昨年度はファカルティ・デベロップメント関係の研修に18人の教員が参加し、国内外の学会等の参加は126件であった。「高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施」については、科学研究費補助金が、ここ数年、申請件数、採択件数、交付額のいずれも大きく伸びているほか、共同研究をはじめとする外部資

金や技術相談件数も増加している。これらの多くは、地域共同テクノセンターを中心とした活動に基づくものであり、これらの活動により「最新の教育・研究動向を把握」している。

また、文部科学省の「大学教育の国際化推進プログラム」に「グローバルエンジニアリング養成のためのFD推進－技術英語指導とエンジニアリング能力指導の融合と指導力向上－」が採択され、平成18年7月末から英語教員2人と専門科目担当教員4人が、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校で8週間にわたる研修を受けているなど「自らの教育力の継続的な向上につとめる」に関する活動が行われている。

これらのことから、研究の目的に沿った活動の成果が上げられていると判断する。

A-1-③ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

教育・研究及び管理運営等に関し、広く学外の有識者から意見を求めるため運営評議会を設置しており、研究活動等について学外の有識者からの提言、意見を採り入れながら研究活動等の実施状況や問題点を把握しているほか、外部評価委員会より、地域社会の意見を採り入れながら研究活動等の充実に努めている。

これらにより得られた意見や提言に基づき、「研究に関する目標・方針」を制定したほか、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に「高専間連携を活用した体験型環境教育の推進－持続可能な環境社会を担うエンジニア育成のための体験型教育プロジェクト」が採択されたほか、文部科学省の「大学教育の国際化推進プログラム」に「グローバルエンジニアリング養成のためのFD推進－技術英語指導とエンジニアリング能力指導の融合と指導力向上－」が採択されるなどの成果が上げられている。

これらのことから、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

#### 【優れた点】

- 「最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。」という目標を達成するため、文部科学省の「大学教育の国際化推進プログラム」に「グローバルエンジニアリング養成のためのFD推進－技術英語指導とエンジニアリング能力指導の融合と指導力向上－」が採択され、技術英語指導とエンジニアリング能力指導の融合と指導力向上への取組が行われており、研究活動の積み重ねが教育力の継続的な向上に結びついている。

**選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況**

高等専門学校の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

**【評価結果】**

目的の達成状況が良好である。

**(評価結果の根拠・理由)**

B-1-① 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」を定めており、この目標・方針の「本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる」に照らし、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、公開講座、地域の小・中学生を対象とした学校開放事業を行っているほか、当該専門学校の教員が小・中学校に出向いて行う公開授業(出前授業)、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択された「地域ニーズ対応型教育の実践」により、地域のエンジニアも含め、将来地域で活躍できる優秀なエンジニアをより多く育成するため、実践的知識を学ぶことが可能な新たな授業として公開講座「地域産業論」を開講するなどの取組が行われている。

また、経済産業省の「平成 18 年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に「島根県における人材育成プログラム『インテリジェントCALS』」が採択されている。

これらのことから、教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断する。

B-1-② サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

公開講座と学校開放事業の参加者にアンケート調査を行っており、アンケート結果からは「大変満足」と「満足」を合わせると 70~100%の参加者が満足しており、成果が上がっていると判断する。

これらのアンケートの結果は、庶務課企画調査係で取りまとめ、広報委員会(平成 18 年度からは企画総務室イベント担当専門部会)とともに結果を分析し、次年度の実施計画に反映させているシステムとなっており、平成 17 年度の学校開放事業のアンケートにおいて、今後も参加を希望するかとの間に、「内容による」との回答が見受けられたことから、平成 18 年度は前年度より 5 講座多く開講するなどの改善が図られている。

これらのことから、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっており、また、改善のためのシステムがあり、機能していると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

**【優れた点】**

- 文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」の採択を受け、公開講座「地域産業

論」を開講するなどの、地域の活性化などに貢献する取組が行われている。

- 経済産業省の「平成18年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された、「島根県における人材育成プログラム『インテリジェントCALS』」は、特色ある取組である。



## <参 考>



i 現況及び特徴（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

1 現況

(1) 高等専門学校名

松江工業高等専門学校

(2) 所在地

島根県松江市西生馬町14-4

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気工学科，  
電子制御工学科，情報工学科，  
環境・建設工学科(土木工学科)  
専攻科：生産・建設システム工学専攻，  
電子情報システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成18年5月1日現在）

学生数

単位：名

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	43	42	41	40	39	205
電気工学科	44	48	42	51	44	229
電子制御工学科	43	41	42	47	35	208
情報工学科	44	43	45	38	44	214
環境・建設工学科	43	40	43			126
土木工学科				47	41	88
計	217	214	213	223	203	1070

専攻科課程	1年	2年	計
生産・建設システム工学専攻	8	12	20
電子情報システム工学専攻	27	23	50
計	35	35	70

教員数

単位：名

区 分	教授	助教授	講師	助手	計
一般科目	7	14	1	0	22
機械工学科	5	4	0	2	11
電気工学科	5	2	2	1	10
電子制御工学科	6	5	0	1	12
情報工学科	4	4	1	2	11
環境・建設工学科	4	4	0	2	10
計	31	33	4	8	76

2 特徴

本校は、島根県と松江市の多大な支援によって、本県における唯一の工学系高等教育機関として、昭和39年4月に設置された。当初は、機械工学科，電気工学科，土木工学科の3学科であったが、昭和44年4月に、制御工学・生産管理・塑性加工学を柱とする生産機械工学科が設置された。その後、社会のニーズに対応するため、昭和62年4月に生産機械工学科を発展的に改組して、メカトロニクス・システム制御を柱とする電子制御工学科を設置、平成4年4月に、情報工学科を新設、さらに、平成16年4月に、土木工学科を環境・建設工学科に改称し

て現在に至っている。また、平成14年4月には、生産・建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。各専攻は、それぞれ、準学士課程の機械工学科・土木工学科，電気工学科・電子制御工学科・情報工学科が母体となっている。

本校では「学ぶ姿勢，創る意欲，エンジニアとしての意志」を兼ね備えた技術者を最終的な目標とし、その下で全学科共通の目標，学科ごとの目標及び専攻科の目標を段階的に設定してカリキュラムを編成している。学生一人一人がその個性・能力・興味に相応しい講義を選択受講して，修得単位を積み上げていく，学年制と単位制を併用したシステムをとっている。1年生では学科の垣根を設けない混成学級とし，上級学年においても他学科と共通の専門科目を数多く用意して，幅広い専門知識の修得を可能としている。さらに，学生が取得した様々な資格を「特別学修」として単位認定し，余暇を活用した，向上心のある学生の取り組みを評価できるようにしている。

一方，本県唯一の工学系高等教育機関であるという立地条件に鑑み，本校では地元企業や自治体との連携を強化し，産官学共同研究も積極的に進めている。平成13年10月には約100社の地元企業との連携組織「松江テクノフォーラム」を立ち上げ，平成18年3月には環境・建設工学科が島根県土木部と協力協定を結ぶなど，「地域共同テクノセンター」を核とした連携活動を発展させてきた。このような実績に基づいて，平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に「地域ニーズ対応型教育の実践」を申請し採択された。このプログラムは，卒業研究などに技術的な地域ニーズを取上げて地域密着型の実践教育を実施することにより，本校の教育自身を活性化・高度化すると同時に，地域の活性化にも貢献することを目指している。

工業高等専門学校という性格上，本校でも「ものづくり教育」に力を入れており，その成果は，プログラミングコンテストで平成15，16年度文部科学大臣賞受賞，ロボットコンテストで平成16年度優勝などとして現われている。また，体育系，文科系の部活動も活発で，学生の加入率も高い。平成17年度は全国高専体育大会で団体競技三種目，個人競技一種目で優勝するなど，毎年のように好成績を収めている。

## ii 目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

本校は、高等専門学校の「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」の目的に沿い、健全な心身を保ち、自己を常に向上させようとする「学ぶ」の姿勢、新たな形をいかなる困難にも負けず「創り」上げようとする意欲、そして技術の進化や地域・国際社会、福祉、地球環境保全に貢献する意志、以上の3点を兼ね備えた「エンジニア」の育成を図るため、次の教育理念及び教育目標を掲げ教育を行う。

《松江高専教育理念》（準学士卒業生及び専攻科修了生の将来的目標）

『創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア』

学校とは、人間的成長を促す場である。

「学ぶ」ことは、その成長の核心にあり、生涯持ち続けるべき姿勢である。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするからこそ「学ぶ」ことにほかならない。本校は、工学を学ぶ志を持った学生に対し、人間的成長はもとより、創造的な「エンジニア」をめざした教育を行う使命を持つ。

「創造力」とは、新たな形をつくり上げる力である。ただし、ただ創造的であるだけでは、本校がめざすべき「エンジニア」とはいえない。人工物は、利用者との相互作用によって絶えず進化していく。そのため、エンジニアには、地域あるいは世界中の人々との視点の共有が必要となる。多角的な視点を確保するための教養、他者との対話力、協働するための団結力、協調性が求められるのである。そして、真に創造的であるためには、情報を収集し分析する能力、および、確実な基礎に裏打ちされた技術を駆使し、対象によってさまざま異なる問題を解決しようとする意欲が不可欠となる。

さらに、21世紀を生きる人間として、欠いてはならない倫理観がある。すなわち、単に自己や所属する組織の利益にもとづく行動ではなく、時にはそれらに反しても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民としての倫理観がそれである。それは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を内包するものでもなければならぬ。その視線は、地球環境への配慮を当然の帰結とする。

自己を成長させるだけでなく、技術の進化や地域・国際社会、地球環境保全に貢献できる「エンジニア」こそが、われわれの理想である。本校における教育は、このような「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」をめざすものである。

《松江高専教育目標》

『学んで 創れる エンジニア』の育成

ま：教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢

つ：さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

え：世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

上述の松江高専教育目標を基に、準学士課程各学科及び専攻科各専攻において、次のような能力を育成する目標を設定し、教育を行う。

### I 準学士課程

〈全学科共通目標〉

- 1 日本語による記述・理解・発表等の基礎能力がある。
- 2 日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。
- 3 外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。
- 4 自然科学に関する基礎的な知識がある。

- 5 社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。

〈機械工学科教育目標〉

- 1 機械工学に関する基礎的な専門知識がある。
- 2 モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。
- 3 コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。
- 4 実験・研究の結果を解析、考察できる基礎能力がある。

〈電気工学科教育目標〉

- 1 電気・電子機器を扱うための基礎的な専門知識がある。
- 2 電気・電子機器を作るための専門的な基礎能力がある。
- 3 コンピュータを用い、情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。
- 4 データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。

〈電子制御工学科教育目標〉

- 1 電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。
- 2 機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。
- 3 制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。
- 4 各分野の知識を、ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。
- 5 データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

〈情報工学科教育目標〉

- 1 コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- 2 コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- 3 コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。
- 4 データを解析・考察し、説明できる基礎能力がある。
- 5 コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。

〈環境・建設工学科（土木工学科）教育目標〉

- 1 構造力学，土質工学，水理学，建設材料学，環境工学に関する基礎的な知識がある。
- 2 実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。
- 3 設計製図，情報処理，測量に関する基礎的な技術がある。
- 4 災害を防ぎ，環境を守る技術の基礎的な知識がある。

## II 専攻科

〈生産・建設システム工学専攻教育目標〉

- 1 機械工学，環境・建設工学いずれかの分野を基礎として，それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
- 2 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
- 3 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。

〈電子情報システム工学専攻教育目標〉

- 1 電気・電子工学，制御工学，情報工学いずれかの分野を基礎として，それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
- 2 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
- 3 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。

### iii 選択的評価事項に係る目的（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

#### 1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校は、平成14年度に専攻科が設置され、従来に増して教員の研究活動に対する比重が高まり、専攻科の学生の特別研究あるいは準学士課程の学生卒業研究に反映されるような研究活動の充実が不可欠となった。一方、平成16年度の高専の独立行政法人化にともなって、研究シーズを背景とした地域貢献も重要な位置付けを占めるにいたっている。

以上の視点から、教育に貢献でき、地域社会にも貢献できる教員の研究ポテンシャルの高さが必要となってきた。これを受け学内の基礎的研究成果をさらに発展させ、地域の特性と地域企業のニーズを的確に捉え、工業技術等の研究開発を学科の枠を越えて推進するために次のとおり研究に関する目標及び方針を策定している。

#### 【松江高専における研究に関する目標・方針】

本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。

このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

組織としては、本校における新技術・高度技術の教育研究機能の充実を図り、地域との連携交流による研究開発を推進することを目的として「地域共同テクノセンター」を設置し、産学官交流の拠点として、地域企業との交流に関する学外諸団体との連絡窓口として、民間機関との共同研究等を通して地域への技術的貢献を積極的に行い、地域社会の発展に貢献することを目指す。また、本校と地域企業とで構成する本校を支援するための外部組織として「松江テクノフォーラム」を設置し、本校と地域産業界との交流を深めることにより、地域と地域産業の活性化を目指すと同時に本校における教育、研究が向上発展することを目指す。

また、これらの連携を通して実践的技術者を育成する観点から、教員個々人が独自に進めてきた基礎的研究をさらに発展させ、地域の特性に密着した研究テーマを卒業研究や特別研究のテーマに取り入れ、教育・研究の活性化・高度化を図り、その成果等を教育研究・教育方法に反映させる。

## 2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

平成16年4月から施行されている独立行政法人国立高等専門学校機構法には、「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」が目的と定められており、その業務として、学生の教育だけでなく「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施すること、及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと。」及び「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。」が規定されている。本校ではその趣旨に基づき、社会との連携及び国際交流に関する目標・方針を定めている。

### 【松江高専における社会との連携及び国際交流に関する目標・方針】

本校では、社会・地域に貢献できる創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアを教育理念として掲げている。このことから教育研究活動において、地域のニーズに即した課題に積極的に取り組み、成果を地域社会に還元するとともに、本校学生に校外実習等の機会を積極的に提供し、実践的技術力の向上と社会性の養成につとめる。また、本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。国際交流についても留学生を積極的に受け入れるとともに本校学生の海外研修を推進する。

上記以外に、本校は

- ・ 平成17年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの「地域活性化への貢献（地元密着型）」に申請し採択された。この内容の一部は、地域活性化に貢献することをひとつの目的としている。
- ・ NHKアイデア対決ロボットコンテストに早期より参加し、平成16年度には全国大会優勝するなど好成績を挙げてきた。このため、県内各地よりロボットの実演や、実験指導の依頼が多い。これは地域小・中学校などの科学への興味を喚起することと、本校情報の周知を目的としている。
- ・ 全国プログラミングコンテストで、平成15,16年度に文部科学大臣賞を受賞するなど好成績を収め、その一部のシステム内容は地域企業から実用化に向けて支援を受けている。これは、地域活性化に貢献することをひとつの目的としている。

#### iv 自己評価の概要（対象高等専門学校から提出された自己評価書から転載）

##### 1 選択的評価事項A 研究活動の状況

本校の教育理念に基づいた教育目標『学んで 創れる エンジニア』の育成に沿った研究や地域貢献に関して、専攻科や地域共同テクノセンターを中心にして研究の推進や支援体制を整えている。プロジェクト研究費や研究助成制度などの施策を進め、限られた研究経費と人員の中で、研究活動の活性化が図られている。

科学研究費補助金や共同研究をはじめとする外部資金導入、あるいは技術相談件数など、申請件数、採択件数、交付額のいずれも近年は大きく伸びてきている。地域共同テクノセンターを中心とした活動が、教員の意識の高まりとともに成果に結びついてきていると考えられる。また、現代GP「地域ニーズ対応型教育の実践—地域活性化への貢献（地元密着型）」の採択に見られるように、地研究や地域貢献のいずれの面においても限られた経費とマンパワーのもとで成果をあげてきている。また、教育・研究活動の年報「Annual Report」発行による個人や学科の研究活動チェックなどが教員間の切磋琢磨に結びつき、専攻科学生の研究活動の充実を含めて、研究成果が増えつつあり、研究等の改善を図る体制は有効に機能していると考えられる。

##### 2 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

本校の教育理念に基づいて定めている「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」に沿って、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、1)地域社会活動としての公開講座や学校開放事業の開催、2)履修生や聴講生を受け入れる体制、3)施設開放などを積極的に行っている。学校開放事業などは、近年定員を超す受講希望があり、地域にその価値を認められている。また、現代GPで採択された「地域ニーズ対応型教育の実践」プログラムの一つの柱である、人材育成のための「地域産業論」を公開講座として地域へも公開し、地域活性化に貢献できる新たな教育モデルを作りつつあることは特筆すべきことである。

各種イベントでは満足度アンケートを実施し、その結果を担当部署の広報委員会（平成18年度からはイベント担当専門部会）において継続的に分析を行い、次年度の実施計画に反映させている。

今後は、小中学校へこちらから出かけていく出張授業の試みを整備拡大していく努力をし、一層地域社会へ貢献したい。

#### iv 自己評価書等リンク先

松江工業高等専門学校のホームページ及び機構に提出した自己評価書本文については、以下のアドレスからご参照下さい。

(なお、自己評価書で根拠とされた資料等は、自己評価書に含まれております。)

松江工業高等専門学校      ホームページ      <http://www.matsue-ct.ac.jp/>

機構      ホームページ      <http://www.niad.ac.jp/>

自己評価書      [http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou200703/kousen/jiko\\_matsuekousen.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou200703/kousen/jiko_matsuekousen.pdf)

